

ひとり親家庭の生活状況に関する調査(平成27年度調査委託事業)
 ~ 主な調査の結果概要(貧困の経験・子どもの状況関連) ~

調査の趣旨

経済的に厳しい状況に置かれているひとり親家庭の自立に向けて、安定した就労による自立の実現を図るとともに、子育てや生活に関する様々な課題などに対応するため、一人一人に寄り添った支援施策が重要である。そこで、ひとり親家庭の親や子に関する生活状況について把握するとともに、ニーズに応じたひとり親支援施策を展開するための参考資料とすることを目的に、調査を実施した。

(三菱UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社に委託)

調査実施概要

調査対象・調査方法

調査種別	調査方法
ひとり親票	児童扶養手当受給者を対象とし、受給者数とサンプル数が比例するように各市区町村あて、調査票を配分した。各市区町村からは、無作為抽出して調査票をひとり親家庭に送付した。
子ども票	ひとり親票が送付された親と同居している子ども(10~18歳)のうち、最も年齢が高い者1名に、親から子どもへ子どもの調査票を配布した。

調査期間:平成28年2月8日~3月11日

配布・回収状況

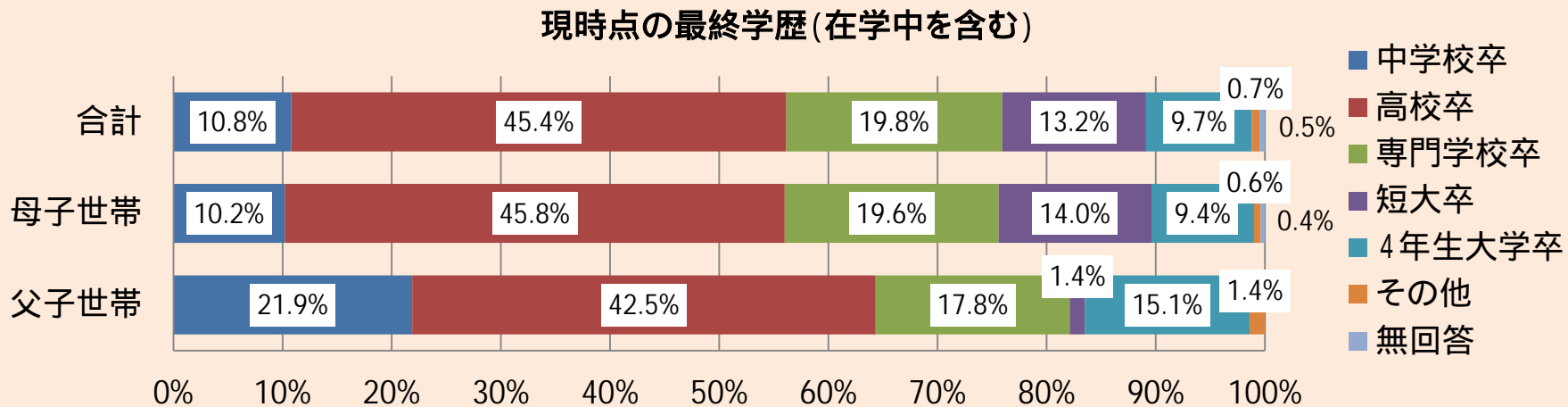
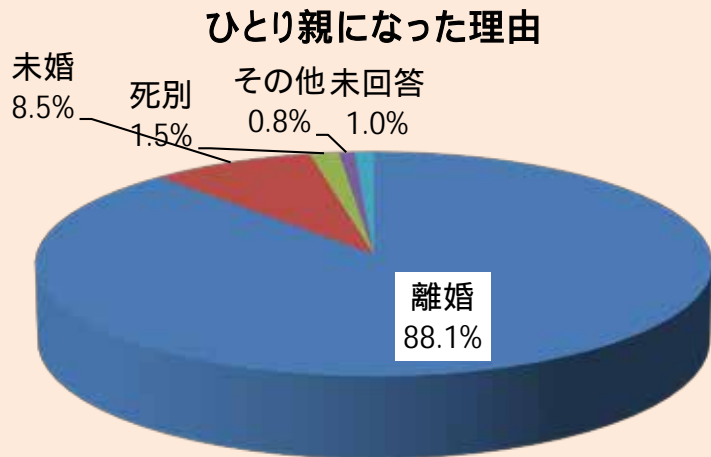
	配布数	回収数	有効回答数	有効回収率
ひとり親票	8,883	1,346	1,346	15.2%
子ども票	6,271	950	839	13.4%

第1章 ひとり親調査

回答者(1,346名)の属性

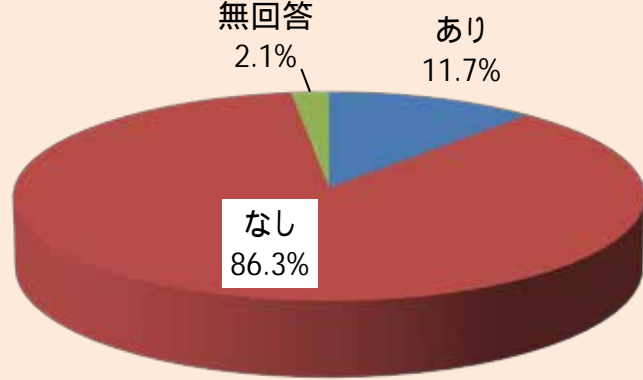
1 性別・国籍・年齢等

- ・性別 : 女性93.7%、男性5.4%、無回答0.9%
- ・国籍 : 日本98.1%、日本以外1.0%、無回答1.0%
- ・平均年齢 : 40.2歳

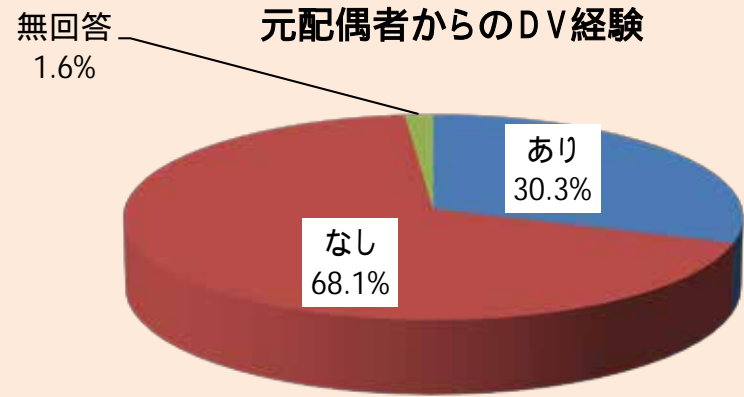


2 被虐待、借金、DVの経験

親からの被虐待経験の有無



元配偶者からのDV経験

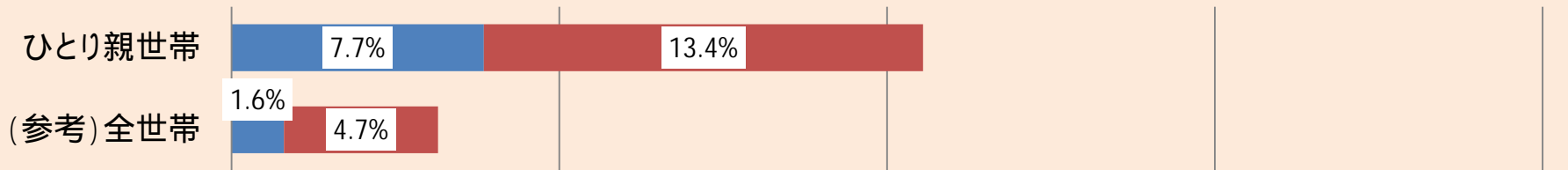


(「あり」のうち、子どもの前でも行われていた
: はい74.5%、いいえ25.0%)

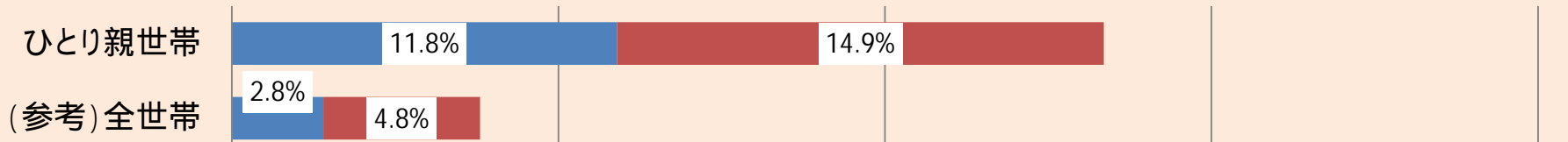
主な調査結果

1 貧困の経験

過去1年に家族が必要とする食料を買えなかった経験



過去1年に家族が必要とする衣類を買えなかった経験

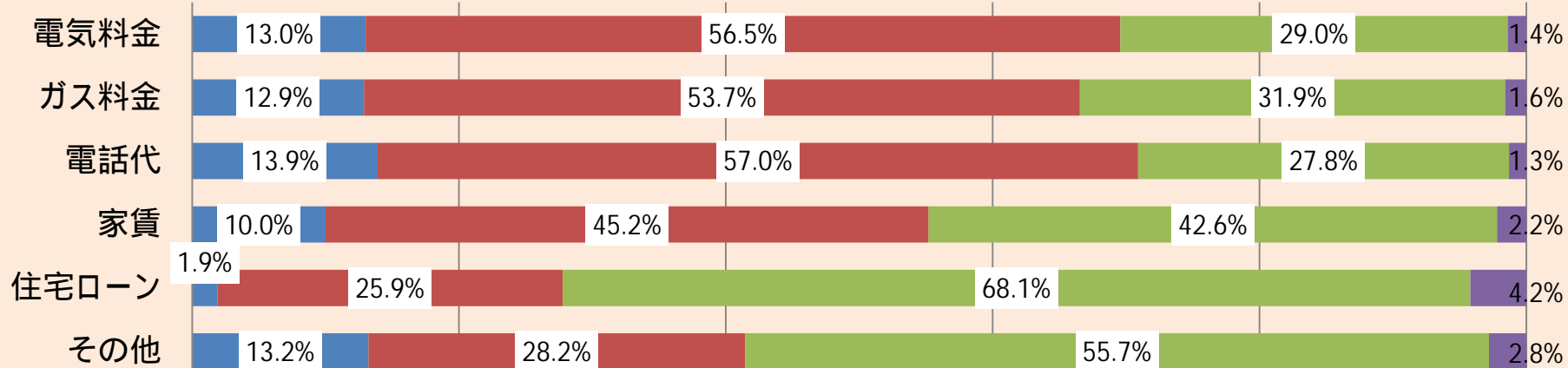


■ よくあった ■ ときどきあった

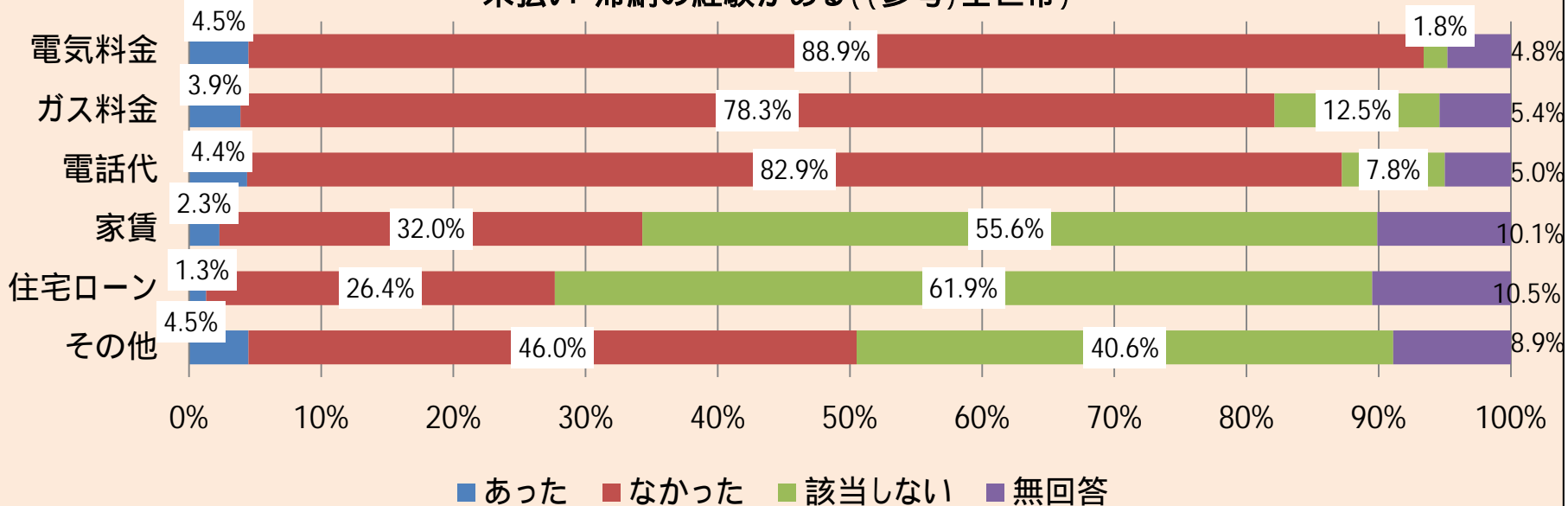
(参考) 全世帯: 平成24年 生活と支え合いに関する調査(社会保障・人口問題研究所調べ)

2 未払い・滞納体験

未払い・滞納の経験がある(ひとり親)



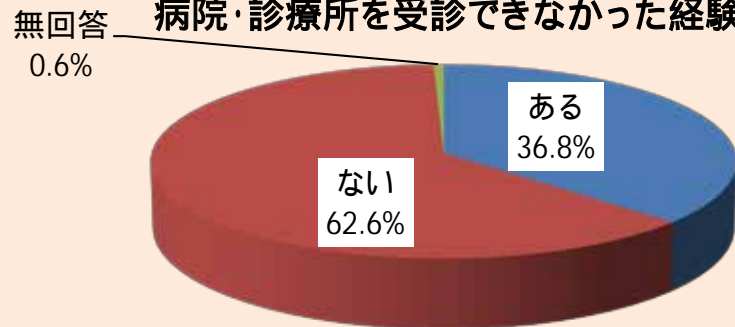
未払い・滞納の経験がある((参考)全世帯)



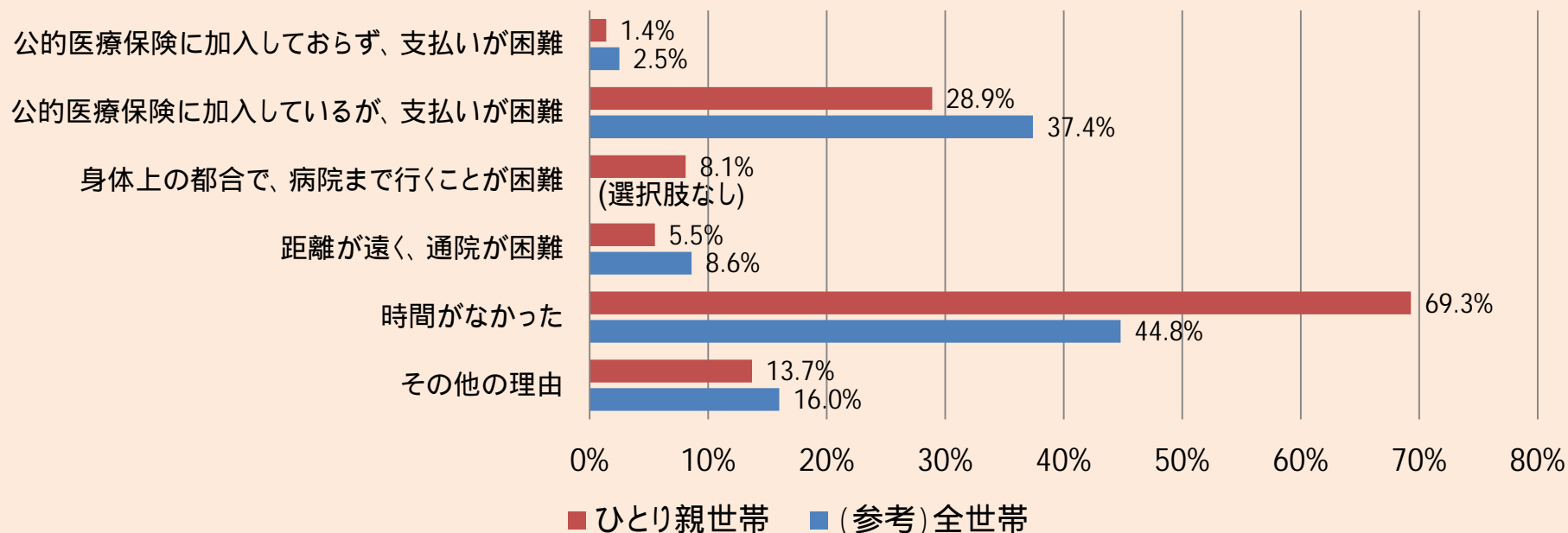
(参考)全世帯:平成24年 生活と支え合いに関する調査

3 医療へのアクセス

病院・診療所を受診できなかった経験



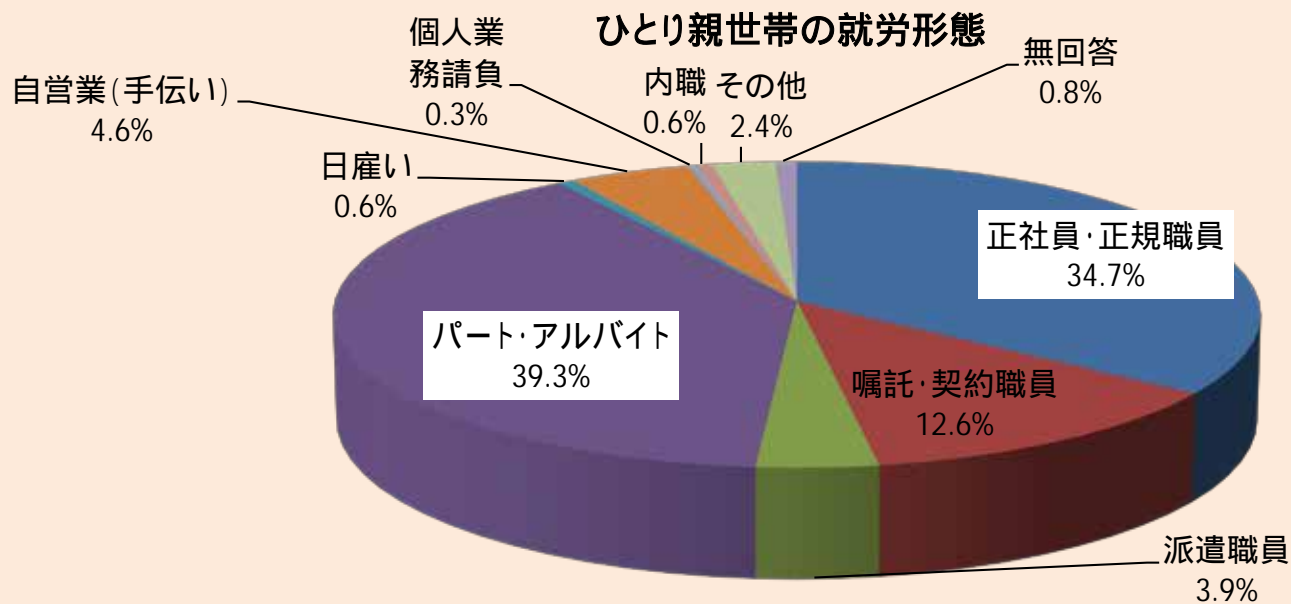
病院を受診できなかった理由(複数回答)



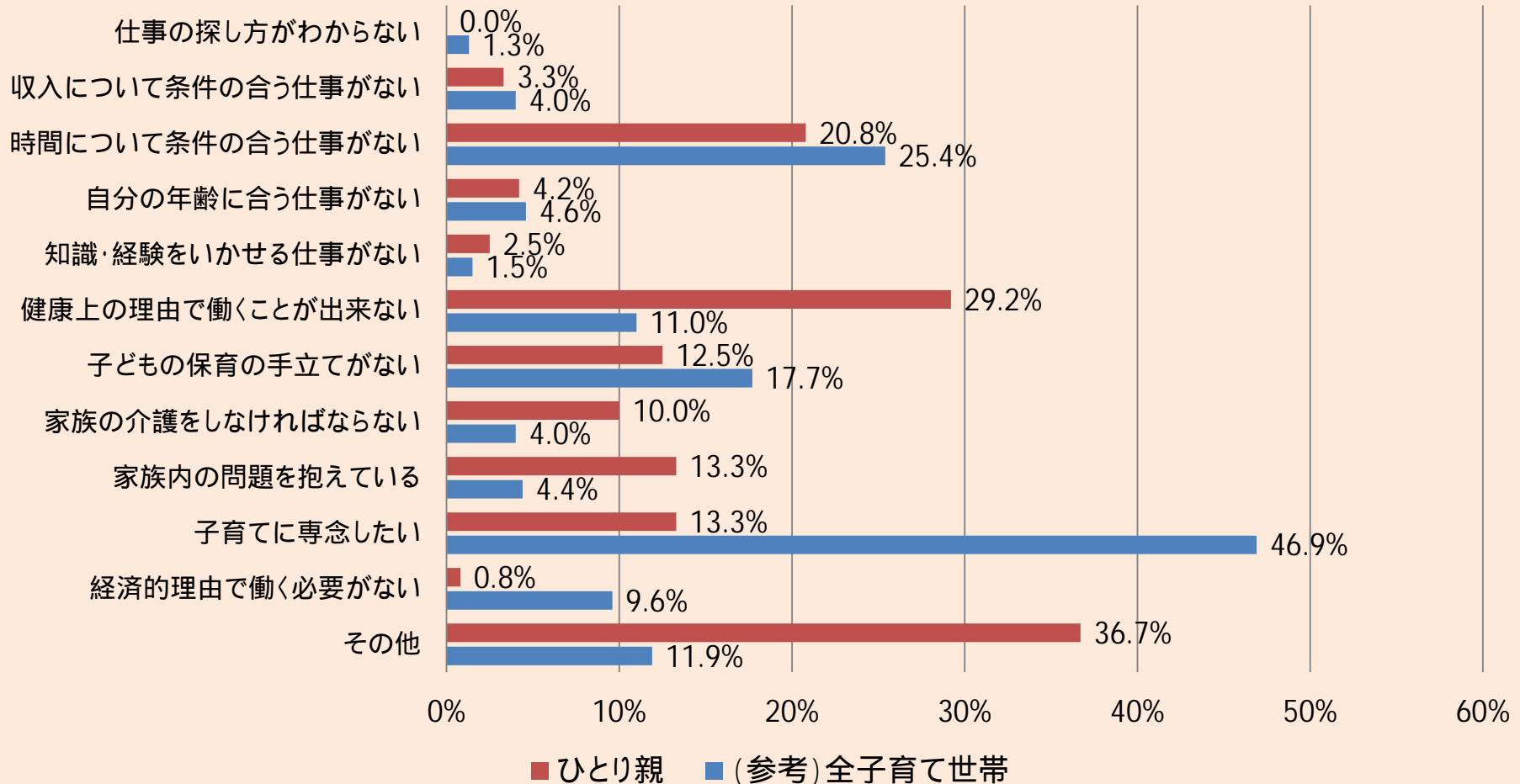
(参考)全世帯:平成24年 生活と支え合いに関する調査

4 現在の就労状況、働いていない理由

・就労している90.3%、無職8.9%、無回答0.7%



現在働いていない理由(複数回答)

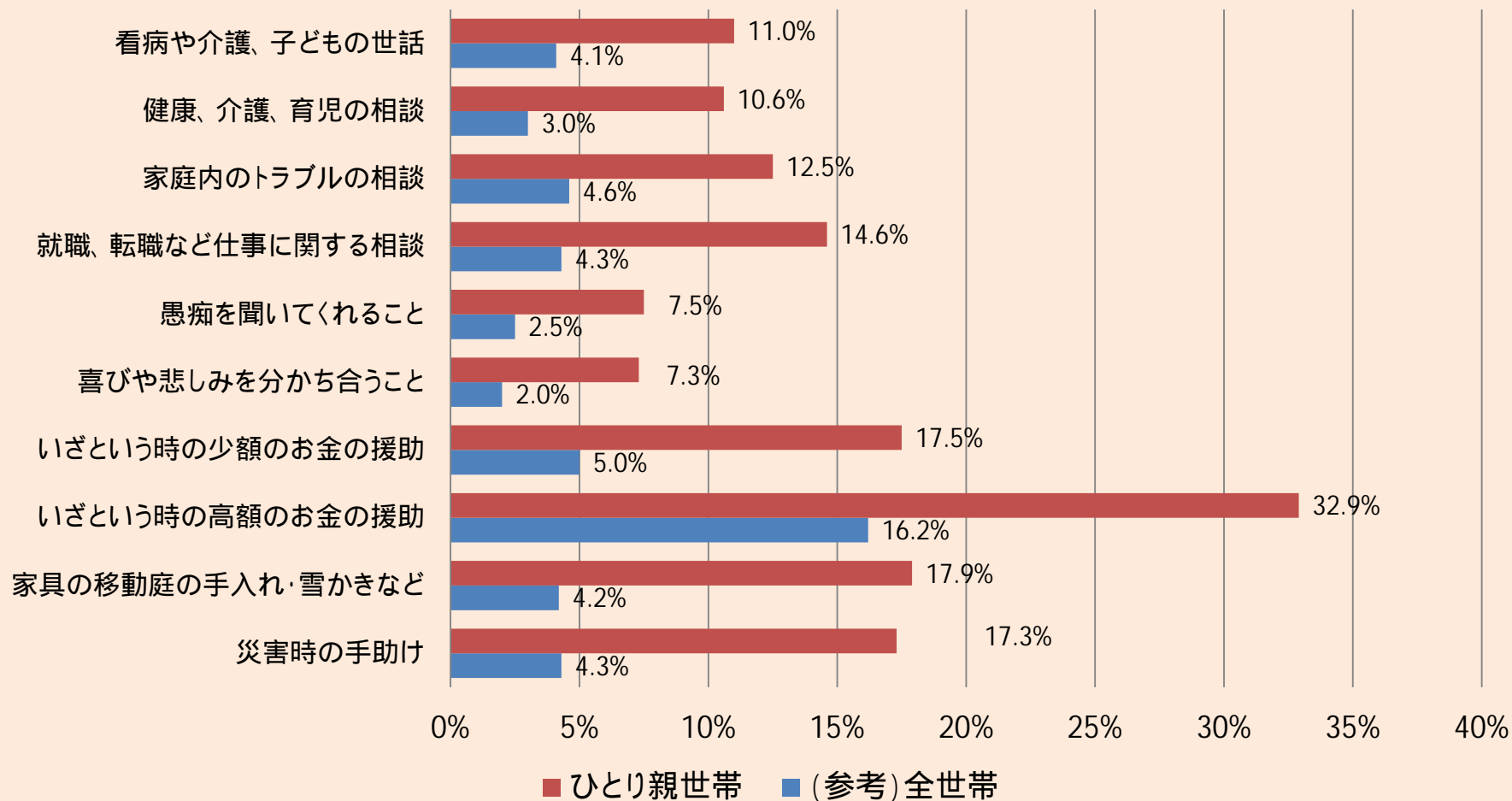


その他の回答例 : 学生のため、採用されないため、就職活動中のため等

(参考) 全子育て世帯: 平成26年 第3回子育て世帯全国調査

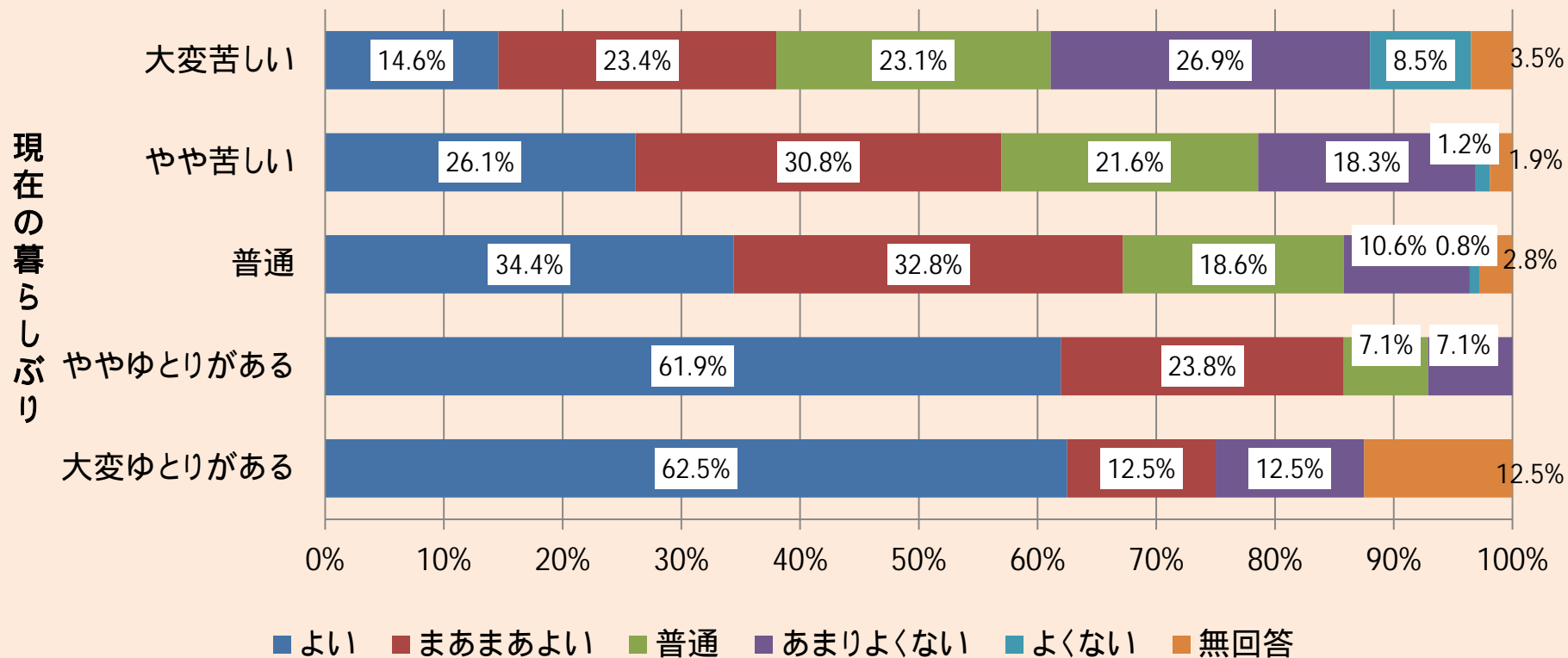
5 社会とのつながり

頼れる人がいないと思うとき(複数回答の一部)



(参考)全世帯:平成24年 生活と支え合いに関する調査

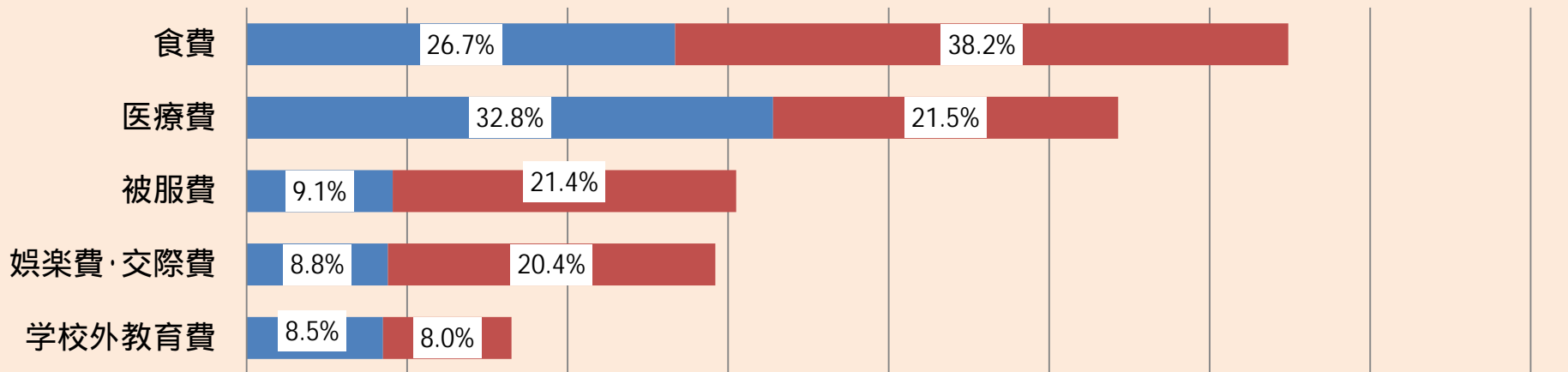
現在の健康状態



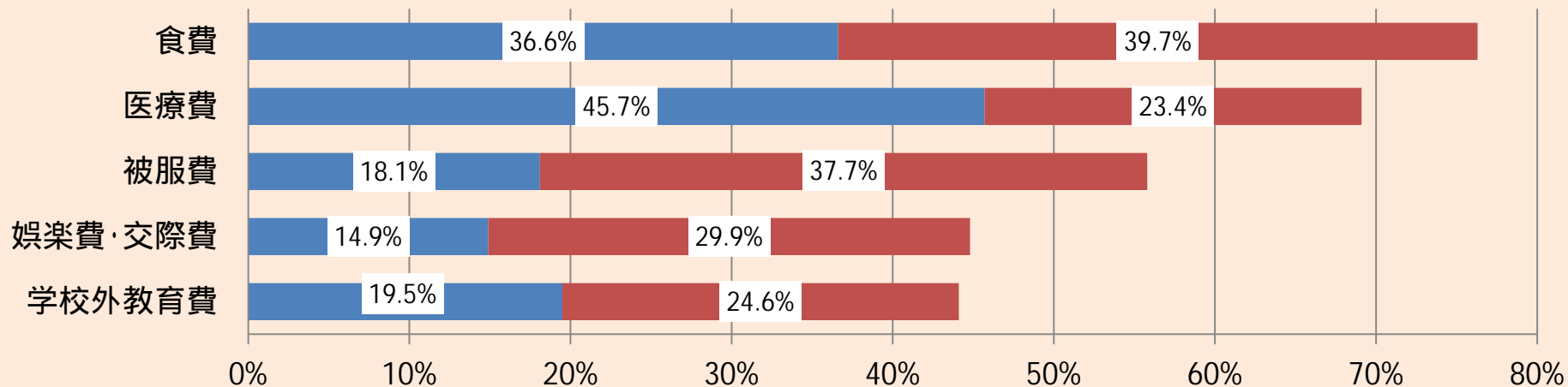
7 収支の状況

支出の評価

自分のための支出

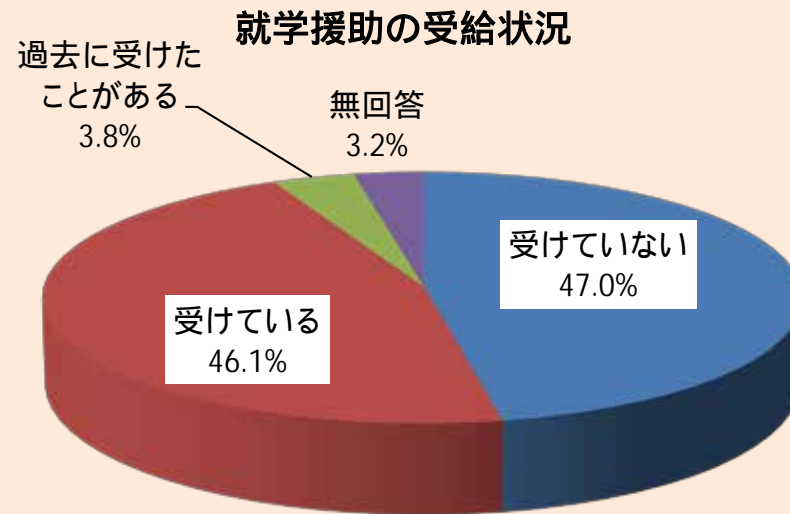
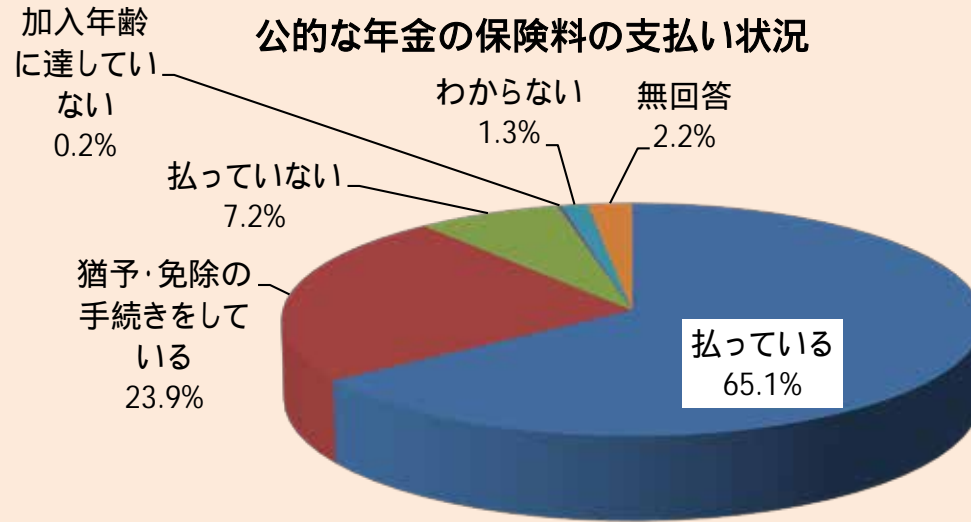


子どものための支出



■ 十分に支出できている ■ ある程度支出できている

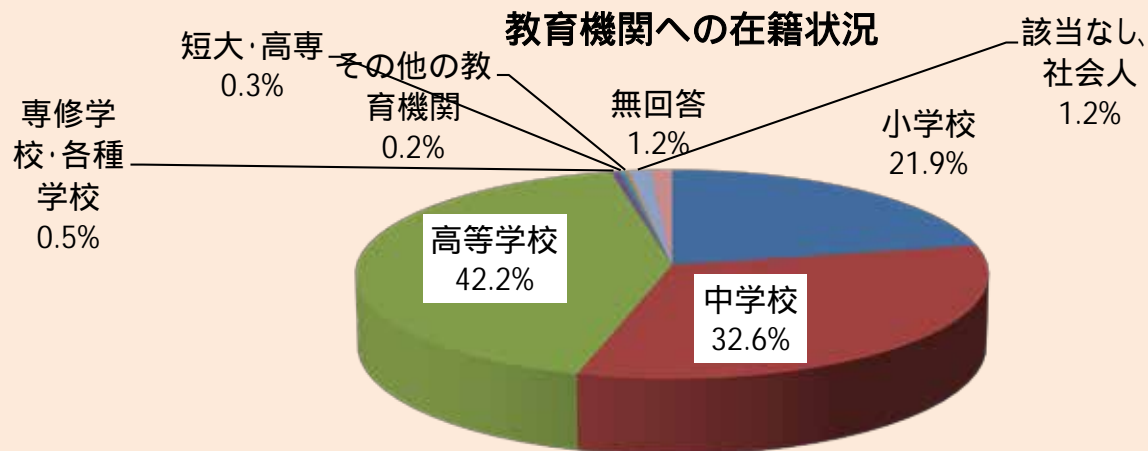
年金・就学援助の状況



第2章 子ども調査

回答者(子ども839名)の属性

- ・性別 : 男性44.9%、女性48.6%、無回答6.4%
- ・年齢 : 平均値14.6歳

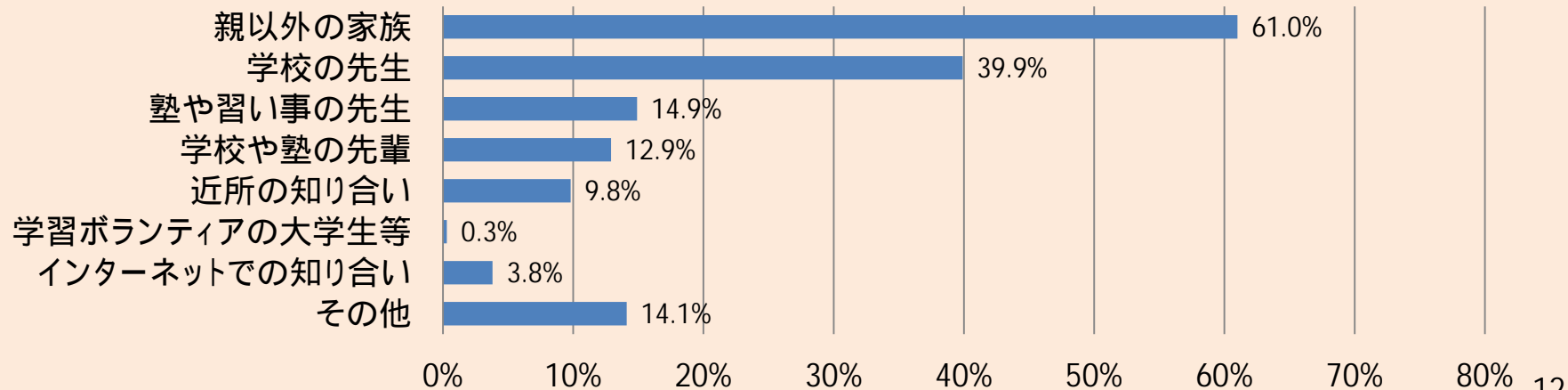


主な調査結果

1 周囲の大人との関係

- ・親以外で信頼できる大人がいる72.8%

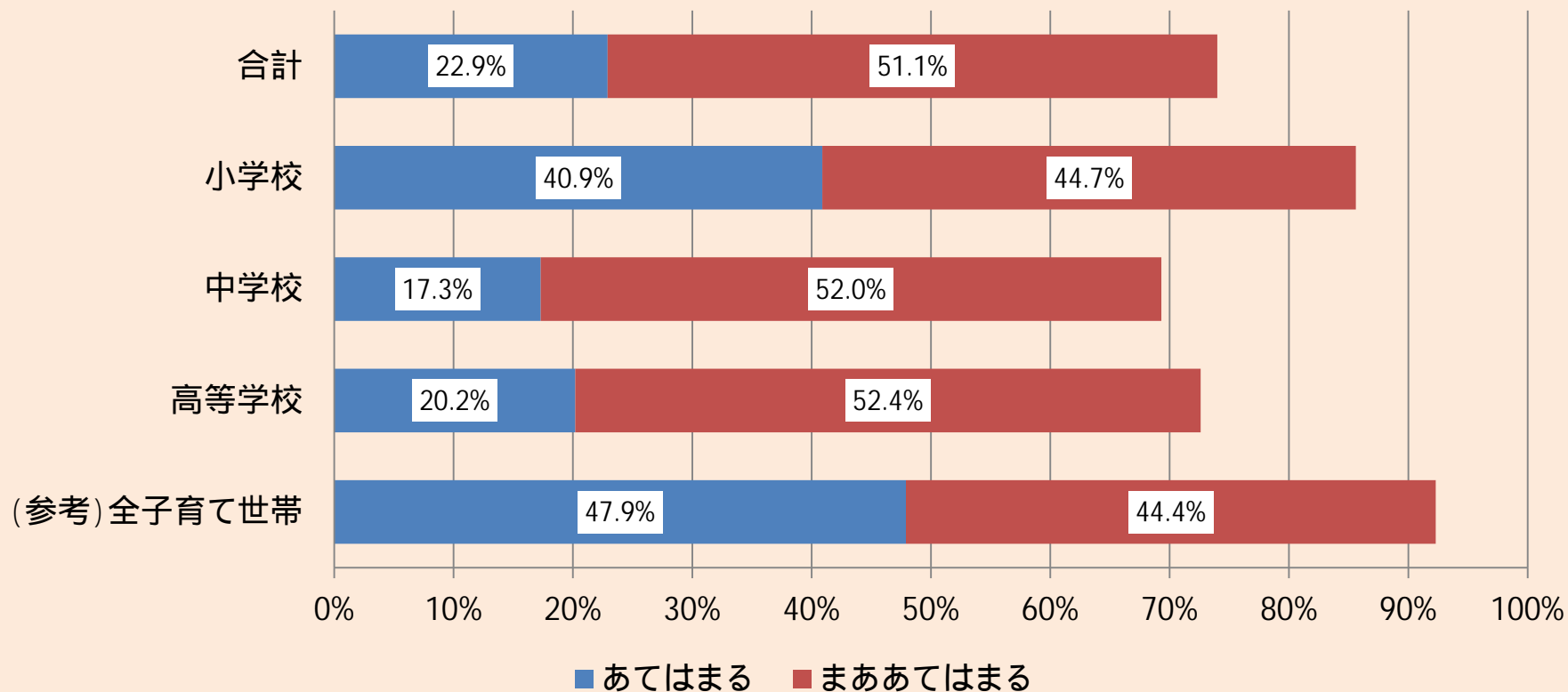
親以外で信頼できる大人は誰か(複数回答)



2 学校、勉強の状況(現在学校に通っている子どものみ)

・成績:「まん中あたり」以上61.3%

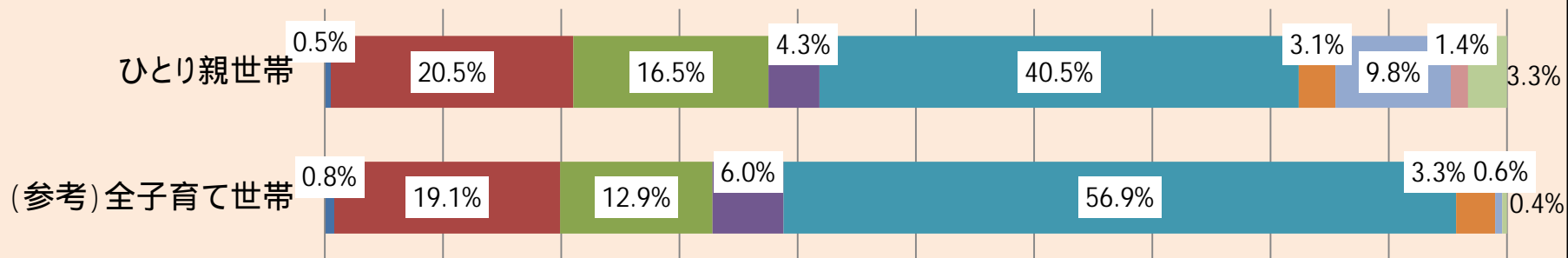
学校の授業がよくわかっている



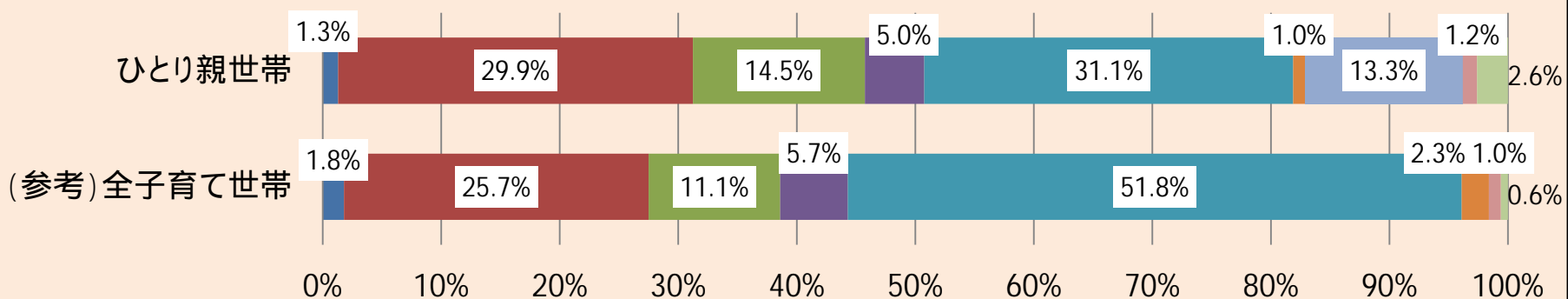
(参考) 全子育て世帯: 平成25年度 小学生・中学生の意識に関する調査(内閣府調べ)

3 進路について(現在学校に通っている子どものみ)

進学希望:理想的な進路



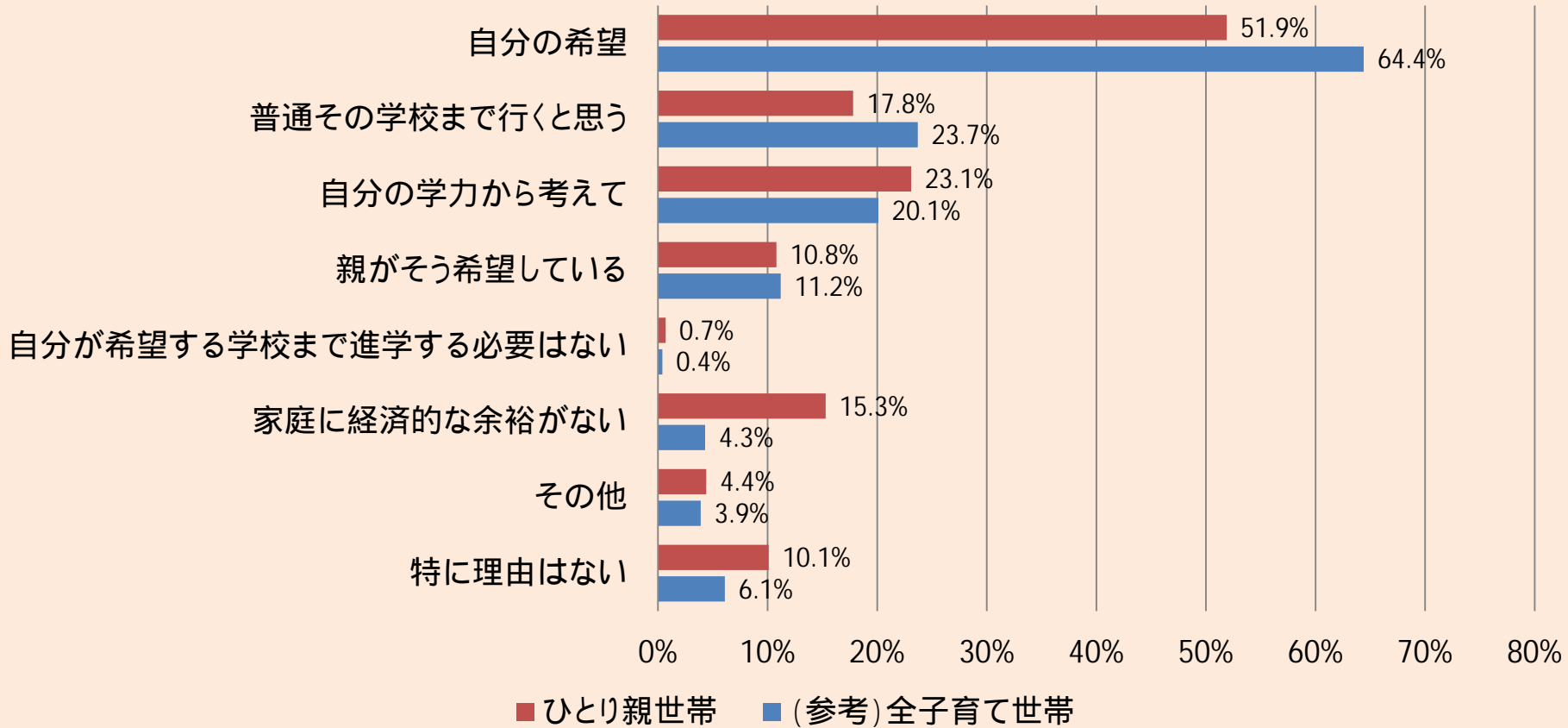
進学希望:現実的な進路



- 中学校まで
- 高校まで
- 専門学校まで
- 高専短大まで
- 大学まで
- 大学院まで
- わからない
- その他
- 無回答

(参考) 全子育て世帯:平成23年度 親と子の生活意識に関する調査(内閣府)
対象は中学3年生のみで単純比較は出来ない

現実的な進路の理由(複数回答)



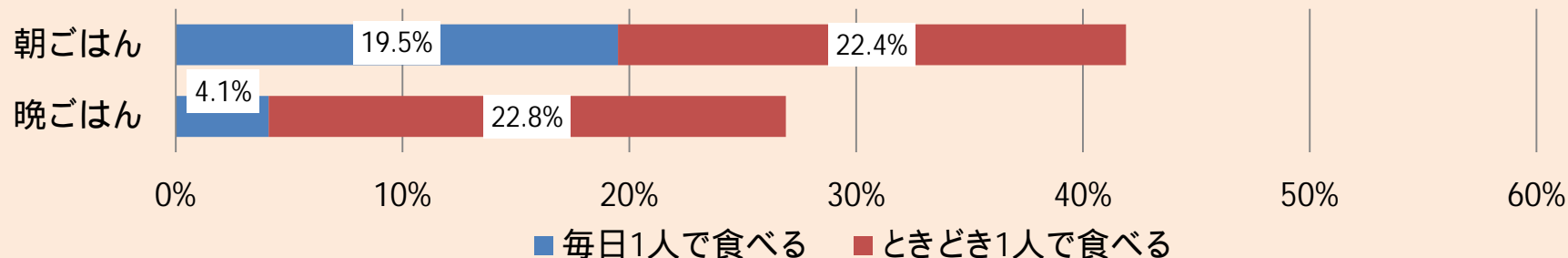
(参考)全子育て世帯:平成23年度 親と子の生活意識に関する調査
対象は中学3年生のみで単純比較は出来ない

4 家庭生活の状況

食事の状況

・朝ごはん、晩ごはんをほぼ毎日食べる割合：朝ごはん77.1%、晩ごはん91.1%

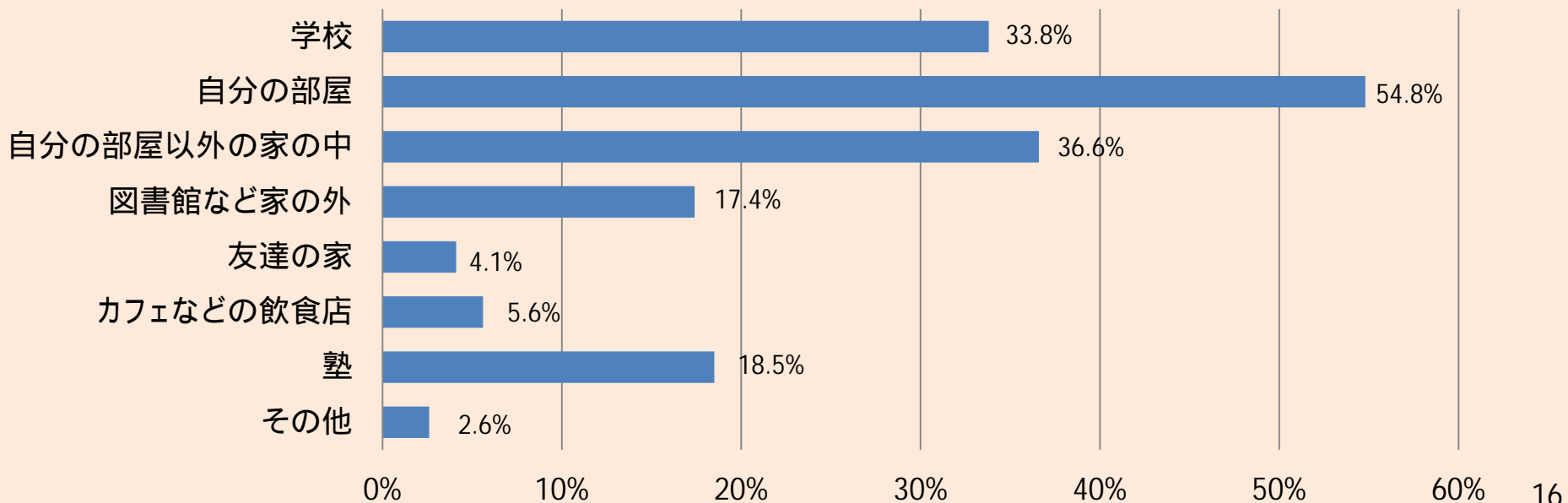
孤食の有無



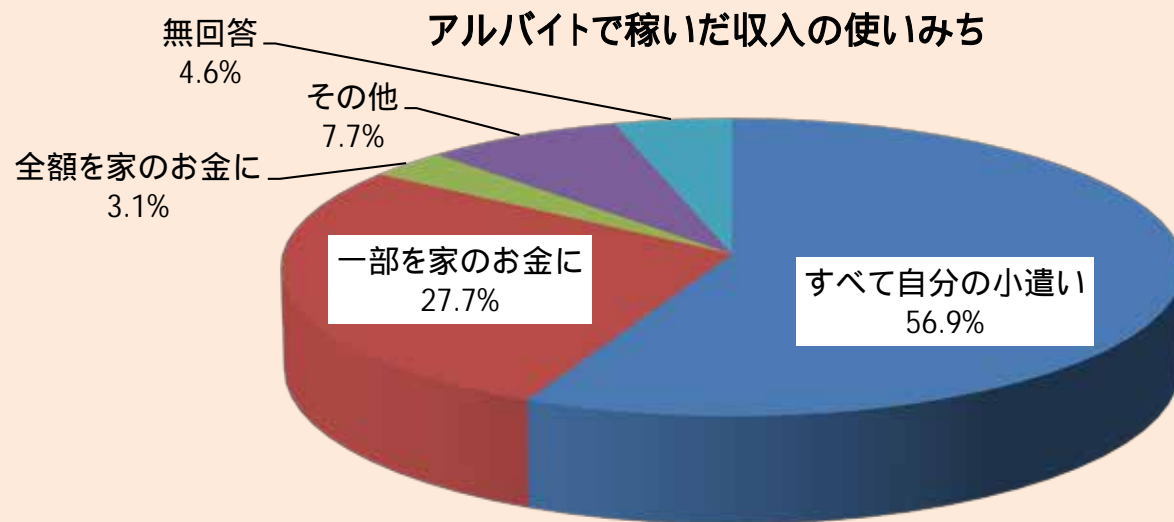
学習環境

・集中して勉強するための場所：ある79.7%、ない17.6%

集中して勉強するための場所(複数回答)



高校生のアルバイト就労状況：している26.4%、していない71.5%



< 就業支援事業 の効果 >

自立支援教育訓練給付金、高等職業訓練促進給付金、母子・父子自立支援プログラム

- ・いずれかの就労支援事業を受講した121人について、受講前後の就労形態の変化を分析。
- ・以下のルールで点数化をしたところ、総得点は89点、平均0.7点で、プラスの効果が見られた。
- ・就労支援事業を受講後、就労形態が改善した人の割合は58.7%。正社員になった人は37.2%。

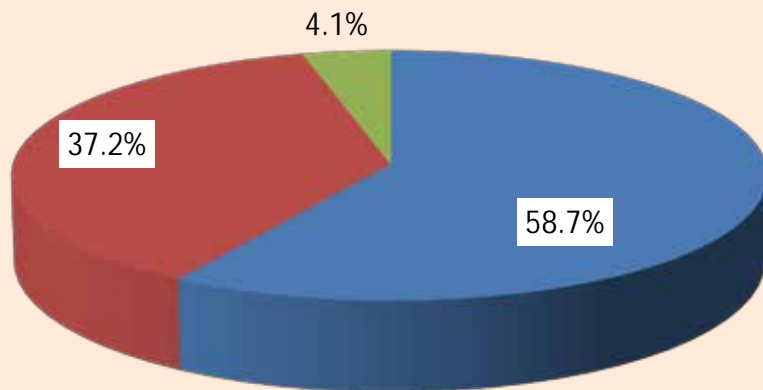
【点数化のルール】

- ・受講前後で2段階下降・・・マイナス2点
(正社員→無職)
- ・受講前後で1段階下降・・・マイナス1点
(正社員→非正規、非正規→無職)
- ・受講前後で変化なし・・・0点
- ・受講前後で1段階上昇・・・プラス1点
(非正規→正社員、無職→非正規)
- ・受講前後で2段階上昇・・・プラス2点
(無職→正社員)

受講前	2段階下降 (-2点)	1段階下降 (-1点)	変化なし (0点)	1段階上昇 (1点)	2段階上昇 (2点)	平均点
全体 (n=121)	1 0.8%	4 3.3%	45 37.2%	47 38.8%	24 19.8%	0.7点
正社員 (n=14)	1 0.8%	2 1.7%	11 9.1%	- -	- -	
非正規 (n=37)	-	2 1.7%	25 20.7%	10 8.3%	-	
無職 (n=70)	-	-	9 7.4%	37 30.6%	24 19.8%	

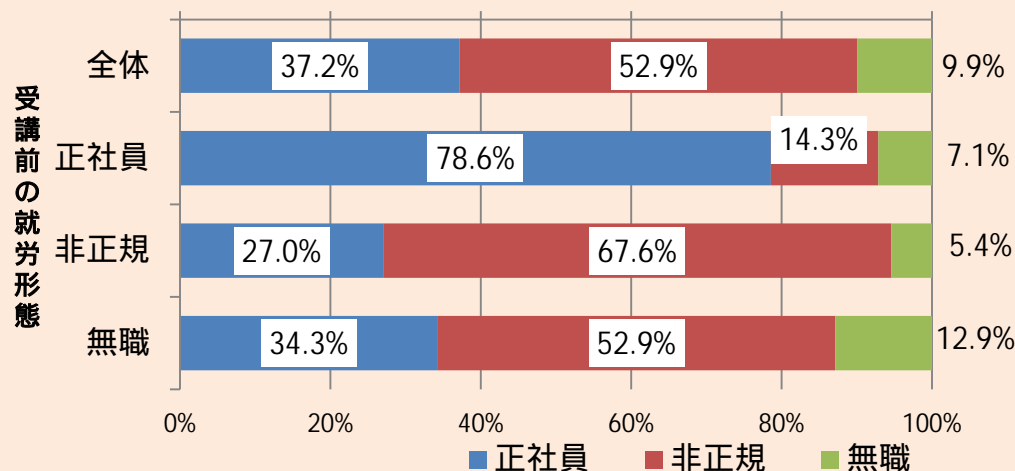
(注) 上段は人数、下段は全体(121人)に対する割合。

就業支援事業受講後の就労形態の変化



■ 上昇した ■ 変化なし ■ 下降した

受講後の就労形態



■ 正社員 ■ 非正規 ■ 無職